

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 科目 No.454 リスク学事例研究 6<br>リスクの回避と工学の役割 | <b>講義名： NO13. 職場環境のリスク回避マネジメントと応用工学</b> |
|                                      | 講師名：長安 敏夫(SCE・Net)                      |

**講義概要**  
 労働環境改善の問題は国際基準が次第に具体化してきた。また労働災害防止に関しても新しい多くの科学的手法が導入されようとしている。  
 最新の流れを解説し、併せて最近の環境改善にかかわる問題の動向を紹介する。

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| <b>目次</b> | 1. 労働安全衛生 日本のあゆみ<br>2. 労働安全衛生 世界の動き<br>3. 労働安全衛生マネジメントシステムの動向 | 4. リスクアセスメントの方法<br>5. OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格)の内容紹介 |
|-----------|---|--|

本講義のねらいは、労働安全衛生をリスクマネジメントの大事な対象としてとらえ、マネジメントシステムを構築しようとする人たちが、或いは労働安全衛生のマネジメントシステムに興味をもつ人たちに、歴史的な流れ、各国の動向、国際的な取り組みの背景を示しつつ、今後の方向のヒントを与えることである。

- 労働安全衛生 日本のあゆみ** では、労働災害の推移とともに安全衛生法の成り立ちを解説する。  
 日本のみならず、先進各国の安全衛生法令はマネジメントシステムをして労働安全衛生対策に取り組む方向性を出す試みがなされていることは注目に値する事を認識していただく。  
 また、最近注目され、今後も長い取り組みが必要となるアスベスト問題の簡単な解説も行う。
- 労働安全衛生 世界の動き** では、先進各国の労働安全衛生の取り組み特長を示すことにより、それぞれの良い点を学び、今後のヒントとすることを狙いとす。
- 労働安全衛生マネジメントシステムの動向** では主にISO、ILOの状況を示す
- リスクアセスメントの方法** では、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、取り組む上で基礎となる、リスクアセスメントの具体的な方法を解説する。同時にこの中で、許容できないリスクをどう判断し、どう対処するかも考察する。
- 最後に労働安全衛生マネジメントシステムの例として、現在国際規格の候補となっている規格の具体的な内容を概説する。

**1.3 労働安全衛生管理、考え方の推移**

**労働安全衛生法による安全衛生組織で安全衛生管理**

**全員参加型安全活動の活発化**

- ・全員参加安全活動
- ・ヒヤリハット情報の募集と活用
- ・TPM活動 など



↓

**労働安全衛生をリスクマネジメントの一環としてとらえる  
リスクアセスメントの発展  
労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格化の動き**

